

ひとりっ子であることから大事に育てられすぎた。

- ② 成長期である小学4年ごろから、いやなことを実行に移す段階になると、気分が悪くなる傾向があった。(給食時、プールに入る時テストを受ける時など)
- ③ 顔色が悪く疲れやすかった。
- ④ 食欲があまりすすまない方である。
- ⑤ 幼児期、小学生時期に、困難に耐える訓練がなされず、がまん強さが育たなかった。
- ⑥ 常に母子分離不安的傾向が強いため自立できず、一人で行動したり、決断を迫られる場面にたたされると不安になり、血流の調節に障害をきたし、気分が悪くなることをくりかえしてきた。

以上の要因がからみ合い、起立性調節障害へと➤

(8) 指導経過

回数	母との面接とその活動	子供との面接とその活動
初回 (11月22日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主訴の内容について詳しくきく。 ・ 本人の生育歴について話してもらう。 ・ 医師の診断では「起立性調節障害」とのことであった。 ・ 親子関係診断テスト及びエゴグラム(簡易精神分析検査)を実施した。 ◎ 診断及び今後の指導方針について話す。(6)、(7)の通りである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印象一顔色が悪く、何か悩みをきいてほしいという感じである。質問には気軽に応じてくれた。 ・ 本人の訴えをきく。 ・ 一人で何かしようとする気分が悪くなる。(一人で登校、一人で留守番、一人でバスに乗るなど) ・ 食欲がなく、疲れやすい。 ・ Y-G性格検査実施。 ・ 自律訓練簡便法の実施。 ◎ 本人は医師と「病院に入院するなら自分の力で治してみせる」とやり合っている。この気力を持ち続け、努力していくように本人を励ます。今後の取り組みについては本人と相談し方針の①②を決定する。
2回 (11月29日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供にはああしろ、こうしろと言わないようにしている。 ・ 家で内職をやっているが、できるだけ一人で家におくよう心がけている。 ・ 家の手伝いは、本人が食事の後かたづけをやるというので、このことを続けさせている。 ◎ 母親も自覚してき、養育態度の改善に努力している姿がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の手伝いは、食事の後かたづけ、部屋の掃除などをやっている。 ・ 毎日、夕方犬と散歩している。 ・ 一人で留守番していても、不安でなくなってきた。 ・ バスにのる練習は3回やってみた。 ・ D町ーH町間(4km) 2回実行 成功 ・ D町ーS町間(4km) 1回実行 成功 ・ 自律訓練は実施している。おちついてきた。 ◎ 本人は約束したことを確実に実行し、意欲的である。一人で留守番できたこと、バスにのれたことに自信をもってきたようだ。顔色も少しよくなってきた。
3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ かぜをひいて病院へ2回ばかりいったので子供が「今週はバスのりの練習はしない」というからその通りにさせておいた。 ・ 自分から中学校の担任の先生、養 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割は実行している。 ・ 犬との散歩は、毎日30分～1時間ぐらいやっている。 ・ 留守番は平気できるようになった。 ・ バスにのる練習は中止した。 ・ 身体の調子は以前よりよくなった。食欲も普通になった。

➤すすんだものと推察される。

(7) 指導方針

- ① 日常生活における耐性強化のための訓練をする。
 - ア 家庭での役割分担とその遂行。
 - イ 毎日、散歩か運動の実施。
 - ウ 一人で留守番をする。
 - エ 一人でバスに乗り、遠方までする練習。
- ② 一人で行動する時の不安感の除去の訓練をする。
 - ・ 自律訓練簡便法の実施。
- ③ 母親の養育態度の改善をはかる。
 - ア 子供との分離をはかる。
 - イ 指示・命令をできるだけさげ、自分のことは、自分でさせる。
 - ウ 学校のことは口にしないようにする。